



# 和敬会だより

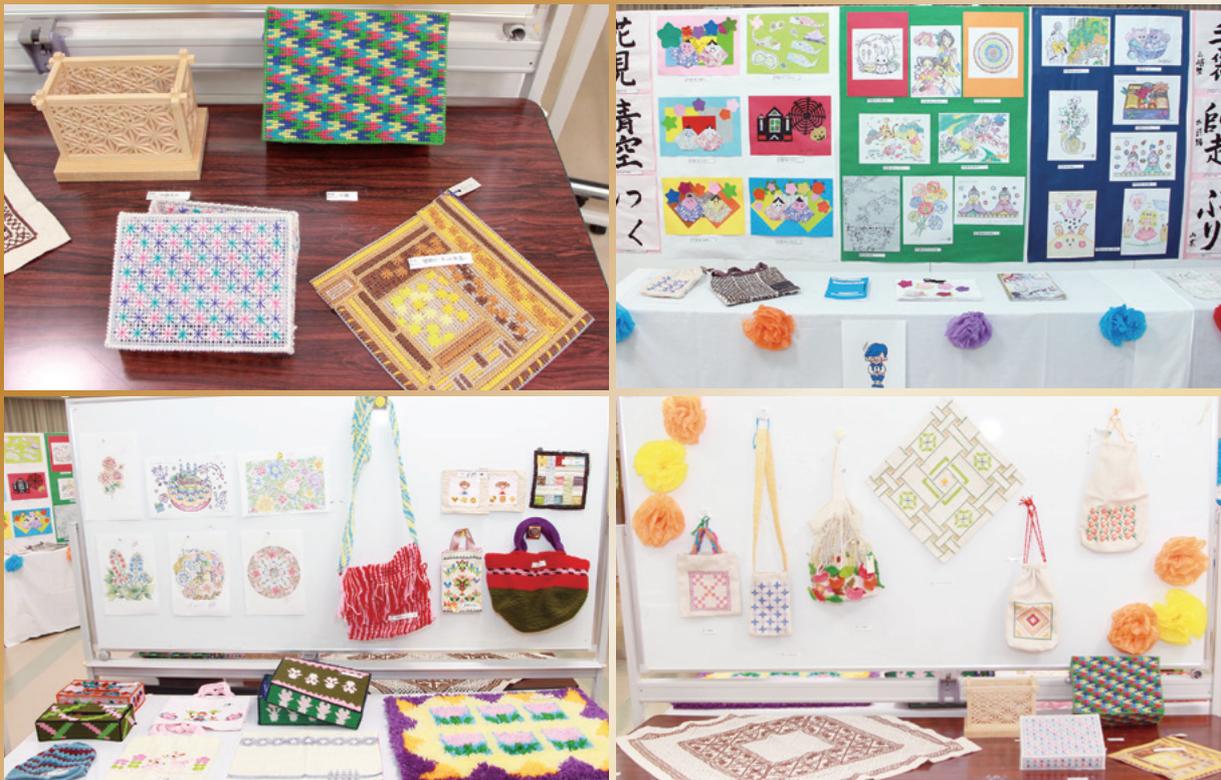
第151号

発行所  
医療法人社団 和敬会  
谷野呉山病院  
富山市北代5200  
<https://www.wakeikai.com>

発行人  
理事長 谷野 亮一郎



発行日 令和7年5月20日



3月3日～7日の「やすらぎホール作品展示会」に出展された作品。いずれも力作揃いです。

## 医療法人和敬会

### 基本理念

「希望に満ちた人生の回復を目指して 私たちはあなたと共にある」

### 基本方針

- ・専門職がチームで関わり、あなたの価値観を大切に医療を提供します。
  - ・常に研鑽に努め、安全で質の高い医療を提供します。
  - ・広く情報公開に努め、あなたと共に考える医療を提供します。
  - ・精神科救急体制の充実や社会資源との連携を図り、地域に根ざした医療を提供します。
  - ・環境に配慮し、地球にやさしい医療を提供します。
  - ・精神疾患に対する偏見の払拭、権利擁護に努め、あなたが自らの強みを発揮できる社会づくりを推進します。
  - ・人材育成に努め、当院に勤務する職員が自らの強みを発揮できる職場づくりを推進します。
- 私たちは基本理念を胸に抱き、健全な病院経営の下で以上の基本方針を実践します。

谷野呉山病院



職員募集専用



こちらの二次元コードから  
webサイトもどうぞ。



和敬会マスコットキャラクター  
ワケちゃん

## 『病床適正化支援事業』

理事長・院長 谷野 亮一郎

物価高騰、賃上げ等により国公立病院の赤字はさらに膨らみ、民間では赤字に転じる病院が増え、国は令和6年度補正予算での補助金等で支援することとしました。

その支援策のひとつが「病床適正化支援事業」いわゆる「病床買取」です。1床あたり410万4000円で買い取るとした今回の支援に対して、全国から5万床超の申請が出されました。しかし、今回の支援で国が買い取るのは7170床であり、そのうち富山県に配分されたのは100床のみです。

しかも対象となる医療機関は

- ・一般会計の繰入等がない
- ・「令和4～6年度連続赤字の医療機関」あるいは「令和5～6年度連続赤字かつ令和6年度に病床削減した医療機関」
- ・買取病床数の上限は、平均赤字額の半分を越えないこと
- ・1医療機関あたり50床を上限

となっています。

例えば、令和4～6年の平均赤字額が1億円の場合、その半分の5000万円分まで買い取ってもらえますので、12床まで買い取ってもらえます。ただ、国公立の病院では1億円の赤字くらい珍しくないと思いますが、民間の病院でこれだけ赤字が続いている医療機関では12床くらい買い取ってもらっても雀の涙のような気がします。ですが、それでも「病床買取」の対象は民間の医療機関に限定するべきです。国公立病院はすでに十分過ぎるほど我々の税金によって赤字が補填されています。

民間病院の管理者をやっていて時々空しく感じるのは、我々が汗水垂らして働いて得た収益から徴収された税金が国公立病院の経営を支えているかもしれないということです。「そんなことなら、その税金、自分とこの病院の物価高騰対策、人件費に充てさせてくれよ～」と思うのです。我々が、精神保健福祉法に基づいて県知事の権限により行われる措置入院の受け入れや、その措置入院の適否を判断する「みなし公務員」としての診察業務に従事しているため余計そのように感じるのかもしれませんが。被害妄想でしょうか。

前述の「一般会計の繰入等がない」という条件で、国公立の医療機関がふるいにかけられることに期待しています。そもそも、我々同様汗水垂らしている国公立の病院が赤字になること自体、我が国が医療経済的に破綻していることの証左ですが。

地域医療を支える医療機関の経営が悪化する一方で、「GLP-1ダイエット」などと大々的に広告を打って、適応外でバンバン処方しまくってる美容外科に怒りを覚える今日この頃です。

「なにくそ!」という気持ちで、今年度も引き続き、当法人一丸となって地域精神医療に貢献してまいります。



## 第22回 こころの健康を考える講演会を開催しました。

こころの健康を考える講演会は、地域に根ざし拓かれた精神科医療を目指すことを目的として、今年度は令和7年2月1日(土)、当院の北川医師を講師に『老年期うつ病の理解と対応』と題して開催しました。当日は地域住民や地域関係機関スタッフ、当院スタッフなど30名の参加をいただきました。

北川医師より、加齢に伴う身体面・心理面の変化、その変化をご本人やご家族が受け止めるときの葛藤や工夫、うつ状態などの症状や治療方法、回復過程、家族や専門職種の対応の仕方など、不調を来す前兆から対応方法まで解りやすく説明いただきました。



参加者から「加齢に伴う変化、治療が必要な状態とはどんなことか等を聞くことができた」「自分自身の事として学べた。また、家族の立場としても本人を支える時の参考にしたいと思った」「一人で抱え込まず相談していこうと思う」などの感想が聞かれました。

第22回こころの健康を考える講演会 実行委員会



## 小川事務局長 お疲れ様でした。



小川さん谷野呉山病院事務局長としての8年間本当にお疲れ様でした。

小川さんとは人事、設備、経営とまさに『ヒト、モノ、お金』の内容で毎日話をする事が多く、いつも先陣をきっていろいろと動かれている姿勢に私も励まされながら仕事が出来ました。

この度、定年後からさらに3年間の嘱託での期間を迎えめでたく退職されることは本当に名残惜しく、まだまだ教えていただきたいこともたくさんある気がします。



今後変わらず後進の指導をお願い申し上げるとともに、どうか健康に留意され、コロナ禍でなかなかできなかった旅行や趣味など楽しい時間をお過ごしください。

今まで本当にお世話になりました。ありがとうございました。

法人本部長 谷野

小川さんが入職された8年前は、天皇退位が報道され年号が平成から何に変わるのか、日本中が新年号に想像を膨らませていた時でした。約3年後には新型コロナウイルス感染症が日本でも蔓延し、どこの医療機関でもその対応に迫られました。そのような背景の中、小川さんには平易な文章での院内掲示や周知文章の作成を教えていただき、また施設基準変更のため厚生局への届出が増えた際には、医科点数表の解釈を一緒に読み込みました。振り返ってみると小川さんの在職中はとても慌ただしい時期でした。



これまでに教えていただいたことを忠実に活かしながら、事務職員一同協力し頑張っていきたいと思います。

小川さんの新たなスタートに心からお祝い申し上げます。

医事・医療情報課長 森

## やすらぎホール作品展示会を開催しました。

やすらぎホール作品展示会が令和7年3月3日から7日の5日間、当院のやすらぎホールにて開催されました。手芸、習字、塗り絵など全作品数112点、参加者90名の力作が一堂に揃い、どの作品も個性が溢れ、見応えのある展示会となりました。

来場者様のアンケートでも「心を動かされる素敵な作品が多かった」「感動し勇気をもらった」など温かい言葉が数多く寄せられていました。

理事長賞3名、投票による優秀賞10名、入賞者10名に賞状と記念品が授与されました。

第14回やすらぎホール作品展示会 実行委員会



# 法人の動き

月	日	事項
2	1	第22回こころの健康を考える講演会
2	3	富山生活保護実態調査
2	27	指定通院医療機関一般指導監査
3	3~7	やすらぎホール作品展示会
3	10	健康経営優良法人認定
3	19	職員総会
3	26	法人理事会
3	28	防火訓練
4	2	臨時職員総会
4	18	新職員歓迎会

## 新職員歓迎会を5年ぶりに開催

4月18日、5年ぶりに新職員歓迎会を開催しました。31名の新職員を迎え、各部署代表者から心のコもった紹介が行われました。新職員もそれぞれ一言ずつ挨拶し、個性あふれる紹介やコメントで会場を和ませてくれました。

紹介や歓談を通して、新たな仲間を迎えられた喜びとともに、これまで病院を支えてこられた皆さまへの感謝の気持ちを改めて心に刻む機会となりました。

職員同士の交流も自然と深まり、病院全体の結束がより強まったと感じられる、温かなひとときを過ごすことができました。

和敬会職員互助会 代表幹事



## 和敬会が「健康経営優良法人2025」に認定されました

今年初めて、和敬会が「健康経営優良法人2025 大規模法人部門」の認定を受けました。全国で3,400法人(富山県で28法人)が認定を受けています。今後更に改善を重ね、目指すは上位500法人の称号「ホワイト500」!!

健康で働きやすく、職員の皆さん一人ひとりが輝ける職場を作っていきましょう!



紙面に掲載されている患者さまの写真につきましては、掲載に際して、ご本人または保護者のご了承を頂いております。

## 編集後記

私事ながら、大型連休は新型コロナでずっと寝込んでいました。39度以上の発熱でほぼ動けなくなり、「軽症化しているんじゃないのかな?」と思わず恨み言。予定通り本誌を発刊できたのが救いです。(志)